

各教科等における 「令和6年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇児童の興味を引き、聞いたり話したりする必然性のある題材や場面設定となるよう工夫する。
- ◇既習表現を繰り返し使用する活動を多く設定し、聞くこと、話すことに十分慣れ親しませる。
- ◇ICTを活用することで、児童の興味・関心を高め、言語活動の更なる充実を図る。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。

目指す子供の姿

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇指導者同士→指導者と児童→児童同士のように段階的にSmall Talkを取り入れ、既習表現を繰り返し使用する機会を多く設定することで、既習表現や対話を続けるための表現の定着を図る。
- ◇語句や表現を読んだり書いたりする活動は、音声で十分慣れ親しんだ後に設定する。
- ◇ICTを活用することで、児童の興味・関心を高め、言語活動の更なる充実を図る。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード、パフォーマンステスト等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。
- ◇発表内容等をタブレット端末で録画（録音）するなどして児童と教師が共有し、児童の学習改善及び教師の指導改善に活用する。